

山西の家屋に関する方言・民俗の 南北の異同について —平遥の方言・民俗を中心にして

山西大学教授 馮良珍

目次

- 一、方言・民俗研究の内容および意義について
- 二、『平遥方言・民俗図典』の紹介
- 三、平遥の家屋関連の方言・民俗(画像を含む)
- 四、山西省の家屋関連の方言・民俗の南北比較
- 五、南北の異同及び文化圏帰属について(まとめ)

一、方言・民俗研究の内容および意義について

(一) 方言・民俗研究の重要性

- 1 方言と民俗はいずれも多様性があり、まさに「十里離れば、俗を同じくせず」である
- 2 方言と民俗の関係 方言そのものが民俗事象の一つであり、しかも民俗の重要な担体(carrier)と表現形式である
- 3 漢語の方言・民俗は消滅の可能性に直面しており、危篤状態にあると言える
- 4 方言・民俗は地域文化と密接に関係しており、相互に依存している

(二) 方言・民俗文化を保護することの差し迫った重要性

- 『中国都市発展報告(2011)』によると、「都市人口の増加により、小村落、山村の寢床は次第に虫食い状態を呈しており、老人たちがまばらに残っているだけとなっている」
- 方言と地域文化は急速に変貌を遂げ、衰退しつつあり、方言文化を保存し保護することは切迫した課題になっている

(三) 方言・民俗文化を保護することについての中国のプロジェクトの動向

- 1 2002～2004 中国の消滅の危機に瀕する方言の調査研究と新たに『中国言語地図集』を編集する課題(中国社会科学院の重大課題 プロジェクト責任者 張振興)
- 2 2010年『中国方言・民俗図典系列』(第一集) 国家出版基金の援助プロジェクト、十二期五カ年計画国家重点図書出版計画プロジェクト(語文出版社 侯精一、李守業、曹志耘の総主編)
- 3 2011年『中国方言文化典蔵』教育部哲学社会科学研究重大課題難関突破プログラム 曹志耘が首席専門家)

まとめ

- つまり、方言・民俗は人類の文化の蓄積であり、方言・民俗の文化を研究すること自体に価値と意義がある。民族的なものは人類のものでもあり、中国にたいしてだけでなく、世界にとって意義がある。

二、『平遥方言・民俗図典』の紹介

- 1 『中国方言・民俗図典系列』の一つである
- 2 民俗、方言について項目を立て、写真を添えて、図典(事典に似た)形式で、方言・民俗現象を呈示し、その土地の独特な文化現象を透視し、文化・生活の多様性を展示している
- 3 非物質(ぶっしつ)文化遺産資源を保護し、中華文明を伝承するうえで、開拓と発掘を行っており、重要な意義と模範的価値がある
- 4 内容は10章からなり

0 はじめに (当地の概況、歴史、地理、人口、方言、民俗、文化)

- 1 家屋建築 (住宅、古い平遥城壁、建築活動)
- 2 日常用具 (用具、寝具、家具、移動・輸送工具)
- 3 衣類服飾 (衣服、靴・帽子、首飾り)
- 4 飲食起居 (主食、副食、料理、起居)
- 5 農工百芸 (農事・農具、手工業、商業)
- 6 冠婚葬祭 (婚礼、誕生、葬送の儀礼)
- 7 祭日祝日 (春節、元宵節[正月十五日]、寒食節、清明節[春分後15日目]、端午節、中秋節、その他)
- 8 遊戯・娯楽 (民間遊芸、演劇・曲芸)
- 9 宗教・信仰 (人神崇拜、教派信仰、天上神信仰、俗神信仰、祖先祭祀)

(付録：平遥方言の声母、韻母、声調)

二つの方言・民俗図典の例 (語彙+国際表音表記+文字叙述+画像の順)

• 搬家pan¹³tɕia¹³

迁往新居，首先要“填宅”或“奠宅”，杀一只引魂公鸡，以鸡血喷洒房院。搬迁时，要先搬进玻璃瓶子、案板、筷子、蜡烛、发面等东西，表示“平平（玻璃）安安（案板）”、“快快（筷筷）乐乐（蜡蜡）”和“发福（发面）”之意。同时还要蒸一种特别的面食，设香案进行祭奠；悬挂、粘贴特定的避邪物件和图案以避邪趋吉。有的要贴一张带有“道符”的画以镇宅避邪。

- 新居への引っ越しにはまず「填宅」・「奠宅」という祝儀を行い、一羽の雄鳥（引魂公鶏）を殺してその血を宅地内にまき散らす。引っ越し時にはまず瓶、まな板（案板）、箸（筷子）、ロウソク、発酵した小麦粉の生地などを運び入れるが、これらには「平福（瓶瓶）」「安心（案板）」「愉快（筷筷）」「楽しく」（蠟燭）、「豊かに（発福）」（発酵麵）
- “平平安安、快快乐楽”“豊かに”という意味が込められているからである。同時に、特別な麵食を蒸して作り、香案を設（もう）けて祭典を行い、魔よけの図案などを懸けたり貼ったりして、邪を避け、縁起（えんぎ）を担ぐ（かつぐ）。「道符〔道教の符咒〕の絵を貼ってその家の魔よけとするのものもある。

引越し(搬家pan¹³tɕia¹³)

魔よけ

図1-119 「道符」のある絵



図1-121
引っ越しの時の香案と祭壇



図1-120 引っ越しの時の壁に貼る八卦



九魚一兔tciau⁵³ny¹³li¹³tu³⁵

乔迁时用的一种用白面做的造型：九条鲤鱼和一只兔子的面蒸食品。蒸熟后要点红色，用作暖房供品。民间俗谚有“九鱼一兔，越住越富”[9匹の鯉と一羽の兔で長く住めば住むほど豊かになる]とある

- 新居に引っ越し時に小麦粉で作る造形で、9匹の鯉と一羽の兔をかたどった(象る)蒸した食品である。蒸し上がった後、紅色(こうしょく)を点(つ)けて、新居の落成を祝う。民間の諺に「九魚一兔、越住越富」[9匹の鯉と一羽の兔で長く住めば住むほど豊かになる]とある
- (“魚”と“余”の発音が同じですので、“あまる”ということを願う。)



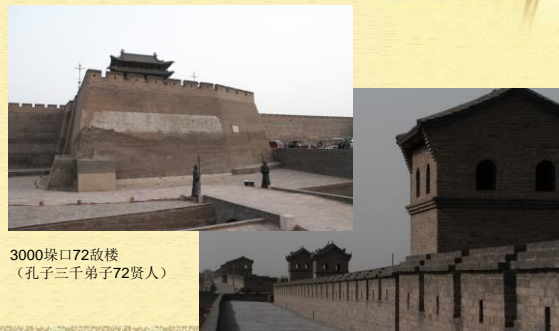
図1-122 九魚一兔A



図1-123 九魚一兔B

三、平遥の家屋関連の方言・民俗(画像)

(一) 平遥古城---世界文化遺産



3000塚口72故楼
(孔子三千弟子72贤人)

(二) 平遥の民居の特徴

- 1 平遥の民居建築の風格は、高い壁に囲まれた密閉型(みっぺいがた)に属する。外壁(がいへき)は煉瓦の積み重ねであり、7-8mにも達する。大きな家では何重にもなる壁で囲まれた城堡(じょうほ)のようであり、多くは**四合院**(しごういん)に属している。
- 2 屋敷内の地面は煉瓦で敷きつめられており、樹木を植えるのは多くない。(妖怪を引き寄せると信じられている)
- 3 邸宅の正門前には**乘馬石**[上馬石]、馬を繋ぐ杭[拴馬槽]、門墩石がある
- 4 屋敷内の配置 正房(北に位置し南に向っている母屋(おもや))、東と西の廂房、南庁は帯門房[入り口門のある建物]があり、屋敷の門は東南の角にあるので「四合頭院」と称す。前後に両進院あるいは三進院を持つものもある。
- 5 正房[母屋]には三~五間があり、多くは窑洞式の建築である。(三と五は陽数)。「正房」の真ん中の一間は外に向って門が開かれており、「門道」と呼ぶ。左右に門を開けて「里間」に入っていく。
- 6 建物の棟には「脊獸」があり、中央は「風水樓」がある。
- 7 部屋のなかの窓際のところには**炕(オンドル)**があり、オンドルの側には**かまど**があって、食事を作ったり部屋を暖めたりする(夏は庭でフイコ[風箱]を使って火を起こして食事を作る)
- 8 農村では窑洞が主であり、煉瓦を積み重ねた窑洞、山を掘って建てた土窑洞、岩を穿って作った石窑洞、日干し煉瓦を積み上げた窑洞がある。窑洞の特徴は冬暖かく、夏涼しいことである。



平遥民居二進院

平遥民居三進院



屋根(町の屋根)

西大通り(西大街)

二進院

三 家屋関連の方言・民俗の南北比較

- 家屋関連は方言・民俗を反映し、資料の収集が特定の時点の制限がない。
- 選択した方言・民俗の調査地点
- 平遥を中心(山西省中部)
- 运城、临汾(山西省南部)
- 长治(山西省東南部)
- 大同(山西省北部)

比較する事象

- (一) 四合院 (四面に部屋がある住宅)
- (二) 門楼子 (玄関)
- (三) 照壁 (玄関に面する飾り壁)
- (四) 墀頭 (石段)
- (五) 懸魚 (飾り図)
- (六) 吉祥図案 (コウモリ、福祿寿の文字、卍字など)
- (七) 石敢当 (魔よけ)
- (八) 窑洞 (住宅の一種)
- (九) 炕 (オンドル)
- (十) 鍋台と炉竈 (竈)

(一)・四合院 (四面に部屋がある住宅)

平遥	四合院[sɿ ³⁵ xɿ ⁷⁵³ təu ¹³ ye ³⁵] 正房[tɕ ³⁵ xua ⁵³] 门道[mən ³¹ tə ³⁵] 东房[tuŋ ³¹ xua ⁵³]西房[sei ³¹ xua ⁵³]
临汾 (霍州)	四合院[sɿ ³⁵ x ³⁵ yaŋ ³⁵] 当窑[tə ²¹² iau ³⁵] 东窑[tuŋ ²¹² iau ³⁵] 西窑[ci ²¹² iau ³⁵] 东房[tuŋ ²¹² iau ³⁵] 西房[ci ²¹² iau ³⁵]
长治	四合院[sɿ ⁴² xə ²² yaŋ ²²] 厅房[sɿ ⁴² xə ²² yaŋ ²²] (东屋[tuŋ ²¹³ u ²¹³ 西屋[ci ²¹³ u ²¹³])
大同	四合院[sɿ ⁴² xə ²² yaŋ ²²] 上房[sə ²⁴ fə ⁴¹²] 堂前[tə ³¹ tə ⁴¹²] (东房[tua ³¹ fə ⁴¹²]西房[ci ³¹ fə ⁴¹²])

四合院sɿ³⁵xɿ⁷⁵³təu¹³ye³⁵ (平遥四合院)

正房[tɕ³⁵xua⁵³], “门道”[mən³¹tə³⁵], 东间儿[tuŋ³¹tciəŋ³⁵ɿ⁷⁵³], 西间儿[sei³¹tciəŋ³⁵ɿ⁷⁵³], 东房[tuŋ³¹xua⁵³], 西房[sei³¹xua⁵³]

俗语有: “有东(屋)无西(屋), 不存老妻; 有西(屋)无东(屋), 不存老公; 只有北屋, 有君无臣。”

(北屋为尊, 两厢次之, 倒座为宾。倒座即指南边客厅, 客人座南向北与北屋的正座相反。)

一般には北にあって南向きに建てられており、正房は三ないし五の窑洞で構成され、両側下向きに東西の廂房があり、南には客厅があり、「倒座」とも呼ばれる。(倒座とは南側の客厅を指すのであり、客人は南にあって北に向うので、北の建物である正房とは反対に位置する)

俗語に「東があって西がないのは女房が長生きできないこと、西があって東がないのは亭主が長生きできないこと、北の部屋だけというのは君がいるのみで臣がないこと」という。

四合院sɿ³⁵xɿ⁷⁵³təu¹³ye³⁵ (平遥)



正房



東、西、南房





臨汾

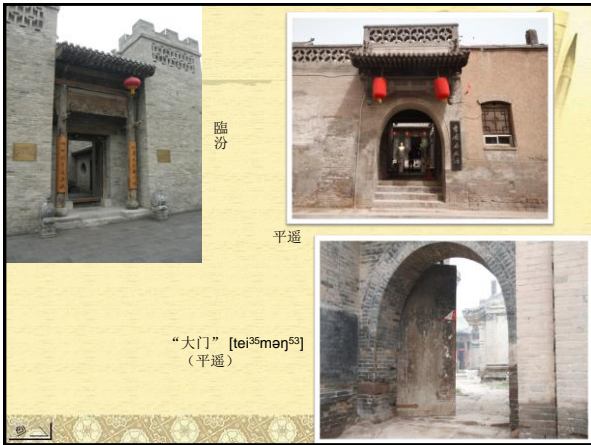
長治

運城

(二) 門樓子 (玄闕)

平遙	門樓子[məŋ ¹³ lau ¹³ tsɑ? ¹³]
臨汾	門樓[məŋ ¹³ lu ⁵³]
長治	門樓子[məŋəu ⁴⁴ tsʰə? ²⁰]
大同	門樓 [məy ⁴¹ lu ⁴¹²]

大同的門樓



臨汾

平遙

“大門” [te³⁸məŋ⁵³]
(平遙)



平遙二進院門樓

臨汾二進院門樓

長治二進院門樓

(三) 照壁 (隱壁) (玄關に面する目隠しの塼 {へい})

平遥	照壁 [tʂʰ53 piɑʔ53]
	照壁 [tʂʰ53 piɑʔ53 piɑʔ53]
临汾	照壁 [tsɑʔ53 pi33]
长治	照壁 [tsɑʔ22 piɑʔ22]
大同	照壁 [tʂɑu24 piɑʔ22]

进出大门的位置。意在遮挡路人视线，使其不能直视院内或对面。老人说是可以保住好风水。



(四) 墀頭 (石段)

平遥	墀头 [tʂʰ13 tau13]、马头 [mɑʔ3 tau13]
临汾	墀头 [tʂʰ13 tau53]
长治	
大同	墀头 [tʂʰ13 tau25]



大同



平遥



临汾

• (五) 悬鱼 (飾り図)

平遥	悬鱼 [ɕyɛ13 ɕy13]
晋南 (临汾)	
长治	
大同	悬鱼 [ɕyɛ41 y41]

建筑装饰，木板、砖雕而成。

最初为鱼形，并悬垂，故称“悬鱼”。

“悬鱼太守”，典出《后汉书·羊续传》。下属送给他生鱼，他收下不吃而悬挂在院中，以示拒绝贿赂。宋徐积有诗云：“爱土主人新置榻，清身太守旧悬鱼。”



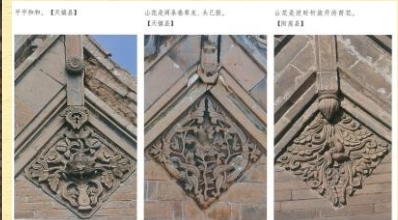
大同



平遥悬鱼

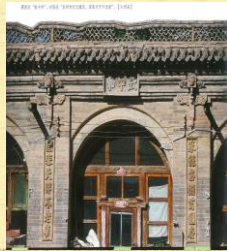


大同悬鱼



• (八) 窑洞

平遙	窑洞[kao2 dɔŋ2] (窑窑[kao2'kɔ2], 窑窑子[kao2'kɔ2'na2'kɔ2'kɔ2], 土窑[kao2'kɔ2], 窑窑[kao2'kɔ2], 十字窑[kao2'kɔ2'kɔ2])
晋南(临汾)	窑洞[kao2 dɔŋ2] (窑窑[kao2'kɔ2], 窑窑子[kao2'kɔ2'na2'kɔ2], 土窑[kao2'kɔ2])
陕北	挂面窑[kua2 nian2 kao2 dɔŋ2]

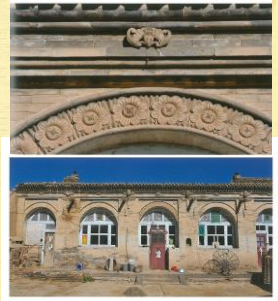
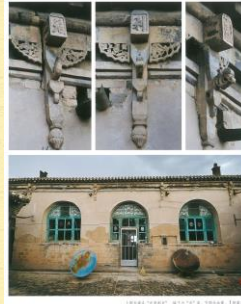


挂面窑
大同



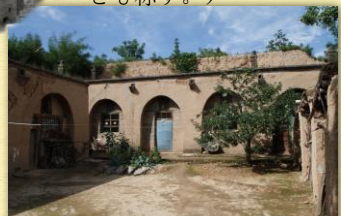
临汾砖窑

挂面窑(大同,窑の建築の表(前上方)に飾りがあるもの)



正房と角房の関係
(窑洞建筑の場合,
“正窑”、“耳窑”
とも称す。)

平遥岳壁郷の窑



平遥岳壁郷の窑
及び中の様子



・(九) 炕 (オンドル)

平遥	炕[kʰuoŋ ³⁵]
临汾	炕[kʰuoŋ ³⁵]
长治	炕[kʰuoŋ ²⁴]
大同	土炕[tʰu ⁵⁴ kʰp ²⁴]

平遥



临汾



大同の土炕




老人のうしろのダンスは過去の大同人がオンドルの上に置く「鋪柜」です。

这是作者于2011年拍摄的家访中拍摄的晋北地区大同市，当时老人正坐在炕上，炕上放着铺柜。

謎がある「炕围画」。(答案: 当朝一品)

竈(锅台)はきれいで、「風箱」も使う。

阳高县




・(九) 炕 (オンドル)

平遥	炕[kʰuoŋ ³⁵]
临汾	炕[kʰuoŋ ³⁵]
长治	炕[kʰuoŋ ²⁴]
大同	土炕[tʰu ⁵⁴ kʰp ²⁴]

平遥



临汾





大同土炕



老人身后是老大同人摆在炕上的铺柜

这是中华老字号 2013 年非物质文化遗产项目 3 号院晋晋林林人的家。晋晋林林人以其精湛的厨艺和热情的服务态度而闻名。晋晋林林人以其精湛的厨艺和热情的服务态度而闻名。

有谜语的炕围画。主人锅台擦得锃亮，还在用带风箱的灶台。谜底为“唐朝一品”

阳高县




• (十) 锅台与炉灶

平遥	锅头[kuei ⁵³ lou ⁵³] (火口[xuei ⁵³ k'əu ⁵³]、燎窝[llo ⁵³ uei ⁵³]、炭仓仓[l'an ⁵³ ts'əy ⁵³ ts'əy ⁵³])
晋南 (临汾)	炉灶台[lu ²⁵ ts'əy ²⁵ ts'əy ²⁵] (炉窝[lu ²⁵ u ²⁵]、炉圈[lu ²⁵ w'yaŋ ²⁵]、火柱[ts'əy ²⁵ ts'əy ²⁵])
长治	火边[xuo ⁵³ p'əŋ ⁵³] (炉灶[lu ⁵³ ts'əy ⁵³]、火圈[xuo ⁵³ ts'əy ⁵³])
大同	锅台[kuo ⁵³ ts'əy ⁵³]、灶火[ts'əy ⁵³ ts'əy ⁵³] (炉窝[炉坑] [l u ⁵³ u ⁵³]、火柱 [ts'əy ⁵³ ts'əy ⁵³])

平遥在灶台平面上有两个“火口”[xuei⁵³ k'əu⁵³]，大的做饭用，平时放一个念瓷；小的用于加煤，坐水壶，平时盖火盖。锅头的火口与坐锅口之间的部分叫“锅脖脖子”，灶的侧面有通气口，称为“燎窝”[llo⁵³uei⁵³]，旁边有“燎窝板板”调节进风量；炕下靠近灶的地方有一个下沉式的砖洞，是“炭仓仓”[l'an⁵³ ts'əy⁵³ ts'əy⁵³]，用来储存少量煤，方便添火。





平遥的火口



平遥的灶台



临汾的灶台



运城（芮城）的灶台A



运城（芮城）的灶台B



大同的灶台（上方方孔添煤 下方放东西）



临汾火口的开合对照



大同灶台上的两个火圈

四 南北の異同および文化圏帰属について(まとめ)

- (一) 方言の帰属という点から見た場合、运城・临汾は「中原官話」に属し、平遥は晋語并州片、長治は晋語上党片に属し、大同は晋語大同片に属する。
- (二) 地方劇から見た場合、运城・临汾は蒲劇劇種に属し、平遥は山西梆子(中路梆子)に属し、長治は上党梆子に属し、大同は北路梆子に属する。
- (三) 物産から見ると、山西省でも所によっては石炭は存在せず、これまで燃料は主としてたぎぎに頼っていた。あるところでは主として塊の石炭を用いていた(临汾、大同)。あるところでは主として粉末状の石炭を用いていた(平遥など)。

今後のより一層の研究課題

ここに挙げたいくつかの側面の違いは方言と民俗の差異を構成する理由となりうる。しかし家屋関連の方言と民俗から見た場合、大同小異の結果となっている。

本報告のうち、われわれの平遥以外の地域の家屋関連の調査はまだ不十分であり、今後一層の調査分析を行ってこそ、異なった地域間の文化圏の帰属を明らかにすることができる。今後のより一層の研究課題とさせていただきます。

御清聴どうもありがとうございました。

ご指導のほどお願い申し上げます。